

常木：テル・レヘシュは三角形のテルということだが、他にそのような形状のテルがあるのか。

月本：方形か楕円形が主で、他に三角形を呈したものはないと思う。

西秋：岩盤が高いということだから、自然地形を利用しているのではないのか。

月本：そうだとおもう。

常木：アプローチはどちらから？南から？

月本：北側に城門があると考えている。

常木：鉄器時代だと南北にある場合が多い。

足立：ペルシャ時代までありそうということだが。

月本：ペルシャ時代は鉄器時代の一部としてます。

足立：採集だと鉄器時代2期の土器はどれくらいか。

足立：ヨフィの土器表採では、どの程度の量が得られているのか？

月本：相当量が近くのキブツにある博物館に所蔵してある。EBI：10%、EBII：25%、MBIIB：？%、IAII：20%、ペルシア期：5%ぐらいか。

藤井：なぜ、聖書考古学の研究者たちは「初期青銅器時代」と言って、「前期青銅器時代」と呼ばないのか。

月本：「前期青銅器時代」でもよいと思う。慣習的に使用しているだけ。

西秋：調査の主体は天理？

月本：エンゲブは日本聖書考古学調査団だったが、レヘシュはイスラエル考古学研究会が主体。実際は天理大の人が多い。あと、杉本先生と同志社の先生。

高浜：アマルナ書簡の他のものはどこから来たのか。他のものも胎土分析により出所が判明しているのか。

月本：粘土板番号 237-239 は完形にもかかわらず発信地が不明だった。メギド、ゲゼルなどの出土土器とアマルナ書簡の対比はまだ行っていないのではないか。調べる必要がある。

石田（恵）：発信地がわかっているものなどの分析結果で一致することは確認しているのか。

月本：している。その地域の土の成分と比較している。

藤井：聖書にでてくる古代名アナハトを実証するような考古学的証拠はこれまでにあるのか？

月本：たとえばラキシユのように古代名の比定が誤っていた事例も多々あるが、イッサカル族とその都市の場合、カルネット・ヒッティーン、キンロットなど周囲のいくつかの遺跡があるが、どれもアナハトには当てはまらないため、大丈夫ではないか。ただし、パレスティナでは一般に文書庫のような施設や文書それ自体は出土することがまれ。

藤井：イッサカルは遺跡などをみると、一部族の地域がヨルダンから見ると小さい。部族というよりも一段階下のカテゴリーではないだろうか？

藤井：レヘシュを掘って、遺跡から返信の書簡がでるかも。

月本：パレスチナには文書庫がほとんどないが・・・。そうなればおもしろい。